



リスク次第。津波に脆弱な地域  
では頻繁に  
学校では月に1回 など

どうやって命を救うか  
津波防災計画の必要性  
警報を真剣に捉えること など

避難訓練の感想 (Q.3) としては、「興味深かった」という意見が最も多く、次に「とても勉強になった」でした。避難訓練から何を学びましたか (Q.7) という質問には、「避難訓練の大切さ」、「津波の怖さ」、「避難経路」と言う順に多く、多くの皆さんが、この避難訓練を通して、プロジェクトが意図したポイントを理解して頂いたことが分かります。特に、「避難経路」を認識することが最も重要で、避難が現実となった時に、この経験が活かされ、参加者の皆さんが自ら動ける（自分が何ができるかを考える）ことが期待されます。

サイレンについて (Q.4) は、「相応しいものだった」、またその長さについて (Q.5) は「丁度良い」が最も多く、メガホンのサイレンを利用した3分間の避難信号が、大半の参加者にとって適当と思われました。その一方で、サイレンの長さ (Q.5) が短すぎると1/4が回答しており、今後、検討の余地があることが分かります。

避難訓練の回数について (Q.6) は、1年に1回もしくは2回が適当という意見が大半を占め、避難訓練の必要性や、繰り返し実施することの重要性を、参加者の皆さんが理解していることが分かります。